



岸和田市立太田小学校 校長室だより

# 「日日の善行」(ひびのぜんこう)

めざす学校像 だれもが主役になれる学校



校長  
山下善久

令和2年8月3日

長かった梅雨もようやく明けて、いよいよ夏本番という季節になりましたが、今年度はコロナ禍による長い休業措置のため、実質は学校が本格的に再開して、まだ2か月しか経っていません。そのため、私はどうも感覚が鈍くなっており、季節感までがおかしくなっているような気がいたします。

さて、最近のテレビを見ていると、コロナ禍によって番組の収録がままならず、過去の番組の再編集だったり、全くの再放送が行われたりしています。そんな中、本来は4月から放送予定だったドラマが、最近遅れて放送されだしました。私が最も気になるのが「半沢直樹2」です。このドラマは、なかなかストーリーが面白くて好きなのですが、主人公半沢直樹がよく言う「やられたらやり返す。倍返しだ！」というセリフだけは抵抗感を感じます。

前シリーズの放送の際、このセリフが流行語にもなりましたが、当時勤務していた小学校では、子ども同士がケンカをしている時に、このセリフを叫んで、相手の子どもを叩くということが、よく発生いたしました。つまり、児童Aが相手の児童Bを叩いたら、児童Bが児童Aに対して「やられたらやり返す。倍返しだ！」と2倍叩き返す。そして今度はAが「こっちも倍返しだ！」とやり返し、ケンカが収まらず、仲直りさせるのが大変でした。ドラマの演出上、インパクトのあるセリフを使用することは理解できますが、それが子どもたちの人間関係に良くない影響を与えたとすると、穏やかではありません。今回はなるべく、このセリフが流行らないで、子どもに影響が出ないでほしいと願っています。

このように、テレビを始めとするメディアは子どもの発育に様々な影響を与えます。私が吉本興業在職中に関わったテレビ番組も、今思い返すと多分に差別的な表現などが使われていたものがあります。特によしもと新喜劇は、背が低い人、太っている人など、個人の身体の特徴を笑いにしているものが多く、人権教育上の問題点も改めて感じております。しかし、その一方で、人を傷つけない明るなお笑いを作ろうと努力している芸人さんもいて、現在はよしもと新喜劇で活躍している「水玉れっぷう隊」のアキさんもその一人です。新喜劇のストーリーの中で、相手が「ごめんなさい。」と謝ったら、「いいよお～」とすぐに許すギャグでおなじみです。実はこのギャグがある小学校で流行ったため、その学校の子どもたちが、トラブルが起こった時にすぐ謝るようになり、子どもたちがケンカをしなくなったという、保護者の方からの投書が、新聞に掲載されたことがあります。

これがキッカケで、アキさん主演の子ども向けの「人を傷つけないよしもと新喜劇」を吉本興業が企画して、私が前に勤務していた東大阪市の小学校で上演され、子どもたちにはとても好評でした。実は今年11月に大阪で放送・視聴覚教育の全国大会が開催され、大会の最後にこの「人を傷つけないよしもと新喜劇」を上演する予定でした。(もちろん私が制作担当です。)

しかし、残念ながらコロナ禍により、新喜劇の上演は中止することになりました。全国大会での上演は幻になってしまいましたが、いつか本校の観劇会で上演したいと考えております。実現に向けて、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



(前任校での観劇会の様子です)